

第3回坂祝町 学校の将来のあり方 検討委員会



10月24日(火) 15:00～

坂祝町中央公民館

第2回学校の将来のあり方検討委員会

○前回の意見交流では

- ・“義務教育学校ありき”ではなく、坂祝町としてどうするかを考えること。
- ・子どもの成長を考えると、義務教育学校の「4・3・2」の区切りは良い。義務教育学校に関心を持った。
- ・義務教育学校は不安なので、段階を踏んで進め、まずは小中一貫校から始めては…
- ・義務教育学校、小中一貫校にした場合、教員の働き方改革をどのように見出していくか。
- ・新しく造るのであれば、隣接している方がいい。小学校と中学校の校舎の間に、多文化共生室があるといい。
- ・小学校と中学校が交流することで、教師の質が変わる。また、子どもの見方が変わる。今から交流はしてもらいたい。

第3回学校の将来のあり方検討委員会

○本日の予定

- ・濃南小・中学校視察の振り返り
- ・グループ討議による意見交流

(テーマは同じでさらに深めたい)



○意見交流のポイント (前回と同じで、さらに深めたい)

- ・坂祝町のめざす学校は…

義務教育学校 or 小中一貫校 or

既存の小学校・中学校の枠組みがよいのか

◇県内の義務教育学校・小中一貫校

義務教育学校	小中一貫校
<ul style="list-style-type: none">◦白川村立白川郷学園 校長1・副校長1・教頭2 前期児童数85 後期生徒数29◦羽島市立桑原学園 校長1・教頭2 前期児童数104 後期生徒数53◦本巣市立根尾学園 校長1・教頭2 前期児童数27 後期生徒数15◦北方町立南学園(北学園) 校長1・副校長1・教頭2 前期児童数319 後期生徒数182◦岐阜大学教育学部附属小中学校 校長(統括)1・校長1・教頭3 生徒数935	<ul style="list-style-type: none">◦岐阜市立厚見小・中学校 校長1・副校長1・教頭2(分離型) 小・児童数593 中・生徒数241◦岐阜市立藍川小・藍川北中学校 校長1・副校長1・教頭3(分離型) 小・児童数152 中・生徒数114◦岐阜市立芥見東小・藍川東中学校 校長2・教頭2(分離型) 小・児童数229 中・生徒数178◦土岐市立濃南小・中学校 校長1・副校長1・教頭2(併設型) 小・児童数86 中・生徒数35◦飛騨市立山之村小・中学校 校長1・教頭1(併設型) 小・児童数10 中・生徒数5

土岐市立濃南小・中学校の視察を終えて



令和5年10月13日(金)
土岐市鶴里町細野138番地

濃南小・中学校の一貫教育の歩み

平成27年 濃南小学校開校(鶴里小・曾木小合併)

- 従来通りの小、中学校に校長を配置
- 小中連携しての教育活動を模索

令和2年 併設型の小中一貫校としてスタート

- 小・中学校兼務校長

令和3年 一貫教育の推進を加速する人事・環境整備

- 副校長の配置と職員室の一元化
- 小3以上の教科担任制、小中合同行事

令和4年 一貫教育全体像の構築

- 四つの柱を中心に教育活動を展開
- 小1からの教科担任制

令和5年 小規模・少人数と一貫教育のマッチングの取組

- 異学年学習集団で学ぶ「こぶしの時間」創設

濃南小・中学校を一つの学校(一貫校)へ

◇小・中一貫校とは？

小・中学校の教員が、めざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす学校

**ふるさと濃南にふさわしい子ども像を描いて、
9年間見通した独自の教育を展開**

◇校舎隣接のメリットを生かして

- ・校長は一人
- ・教員は小中併任
- ・小学校も教科専門性に
- ・P T A組織も一つに
- ・一つのコミュニティ・スクール化

◇これまでの小中連携の成果を生かして

- ・学力や豊かな心と体の確実な定着と向上
- ・6・3の区切りの弾力化により中学校入学時のギャップの解消
- ・異校種・異学年、地域交流による、豊かな心と郷土愛の育成

校内の様子(中学校・小学校・職員室)



一貫教育は「いいことたくさん」①

- 同学年集団から異学年の交流へ
 - ・小学校低学年の児童にやさしく寄り添う中学生の姿
 - ・縦割りによる活動で、中学生に憧れる小学生の姿
- 学級担任から教科担任・チーム担任へ
 - ・小学校低学年でも空き時間を作ることができ、教材研究やその他事務処理の時間が確保できた
 - ・学級の問題を担任一人で抱え込むことなく、チームで解決
 - ・小学生にとっても、複数の教師とかがかわることができて、気持ちの切り替えができる
 - ・児童生徒にとって、多様な見方・考え方・価値観を構築するチームとしての指導が可能

一貫教育は「いいことたくさん」②

- 二つの職員室(小・中別)から一つの職員室へ
 - ・顔がわかる、人を知る、連絡ができる等、一貫教育を進めるうえで必須の条件
 - ・これによって一気に一貫教育が進んだ
- 一人で負う業務から分担して行う業務方法へ
 - ・事務職員の縦割り業務分担
 - ・前期・後期での役割分担を交代しながら行い、効率よく、ミスなく遂行できている
 - ・分掌によっては、出張を小・中一人とし、業務負担軽減w進めることができている

一貫教育は「いいことたくさん」③

○実際の子どもたちの声(中学生)

- ・小さな子と一緒にいると心が癒される！優しくしてあげようと思う
- ・教室とは違った別な楽しみがある
- ・小中一緒だと行事が盛り上がる！

○実際の子どもたちの声(小学生)

- ・中学生のお兄さんお姉さんは、いろんなアイデアをもっているし、何でもできるし、憧れ!!
- ・一緒に遊んだり、優しく教えてくれたりする

校内の様子(校舎の様子・多目的スペース)



最大の課題は…

☆長年培われた、小学校文化vs中学校文化の系統化

- ・「具体指導」と「概念形成」
- ・「可能性」と「現状認識」
- ・「みんな一緒」と「個々の夢や希望」

※「これまでは〇〇だった」を捨て、新しい学校の仕組みや、児童生徒の育ちの見方を変える意識がより一層大切となってくる

濃南小・中学校の視察を終えて…

小中一貫校や義務教育学校などの制度・枠組みは、いろいろあるけれど、地域に育つ子どもたちを育てるためにどういう教育を展開していくのか、その創意工夫と実践力がいちばん大切であると感じている